

臨床薬理学

単位数：2単位

和田孝一郎：薬理学講座 教授

岡本 貴行：薬理学講座 准教授

橋本 龍樹：臨床看護学講座 教授

秋鹿 都子：臨床看護学講座 准教授

1. 科目の教育方針

ケア対象者に実施されている薬物療法について、その薬理作用の正確な理解に基づいて、薬剤使用の判断、投薬後の患者のモニタリング、症状管理、生活調整、回復力の促進、対象者の服薬管理能力向上を図る等、高度な看護実践に必要な薬理・薬剤の知識を学習する。さらに、緊急応急処理、症状調整、慢性疾患管理等の事例検討をとおして、複雑な健康問題を有する対象者の薬物療法を適切に支援するために必要な高度な臨床看護判断力を培う。

2. 教育目標

- 1) 薬物による生体制御の基礎を理解する。
- 2) 医薬品分類に基づき、疾病の治療や症状管理のために用いる薬物の薬理作用、適用、投与時の留意点と投与後のモニタリング、副作用出現時の対処について理解する。
- 3) 薬物療法を受けているケア対象者の服薬管理能力向上のための介入計画を立案できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 講義：人体の系統別に用いる薬剤の作用、副作用、適用に関する基礎的知識についての事前学習を踏まえていること前提として授業を進める。
- 2) 演習：事例検討は、小グループによる演習形式とする。
 - (1)事例に処方された薬剤（薬物）の薬理作用、症例への適応・容量・用法の適切性について討論する。
 - (2)事例の病態をふまえて、投与薬物の体内動態予測、および Therapeutic drug monitoring (TDM)について討論する。
 - (3) 使用された薬剤（薬物）の副作用の可能性、多剤併用の場合は薬物相互作用の有無、その様な症状がおきた場合の対処方法などについて討論する。※ 事例は病態を設定した 2 事例とし、毎年変更する。

【評価】 事例検討での質疑応答などの態度、事例検討をまとめた個人レポート等により、総合的に評価する。

4. 参考文献等(その他、授業の中で随時紹介する)

5. 教育内容

回	月／日	内容	講師
1	4月7日	臨床薬理学 総論①：臨床薬理学の基礎・薬物の作用機序・薬物・薬剤の適正処方と安全管理・副作用とその防止・新薬開発とその情報収集	薬理学 教員
2	4月14日	臨床薬理学 総論②：薬物の体内動態とTDM・薬物動態学の基礎・薬物動態に影響を与える諸因子・薬物相互作用の重要性・Therapeutic drug monitoring (TDM)	薬理学 教員
3	4月21日	臨床薬理学 総論③：臨床使用における諸問題・コンプライアンスとアドヒアランス・ポリファーマシー・分子標的薬など新たなコンセプトによる新薬の登場と諸問題	薬理学 教員
4	4月28日	各論①：心血管系に作用する薬物・薬剤（循環器系に作用する薬物・薬剤）・薬物の作用機序・薬物の適用と投与方法・TDMと投与計画・副作用とその対処法・今後の動向	薬理学 教員
5	5月12日	各論②：消化器系に作用する薬物・薬剤・薬物の作用機序・薬物の適用と投与方法・TDMと投与計画・副作用とその対処法・今後の動向	薬理学 教員
6	5月19日	各論③：中枢神経系に作用する薬物・薬剤・薬物の作用機序・薬物の適用と投与方法・TDMと投与計画・副作用とその対処法・今後の動向	薬理学 教員
7	5月26日	各論④：呼吸器系に作用する薬物・薬剤（含喘息治療薬）・薬物の作用機序・薬物の適用と投与方法・TDMと投与計画・副作用とその対処法・今後の動向	薬理学 教員
8	6月2日	各論⑤：末梢神経系に作用する薬物・薬剤（含眼科・耳鼻科領域で使用する薬物・薬剤）・薬物の作用機序・薬物の適用と投与方法・TDMと投与計画・副作用とその対処法・今後の動向	薬理学 教員
9	6月9日	各論⑥：感染症に使用する薬物・薬剤（抗菌薬、抗生物質、抗ウイルス薬）・薬物の作用機序・薬物の適用と投与方法・TDMと投与計画・副作用とその対処法・今後の動向	薬理学 教員
10	6月16日	各論⑦：抗腫瘍薬（抗がん剤）・薬物の作用機序・薬物の適用と投与方法・TDMと投与計画・副作用とその対処法・今後の動向	薬理学 教員
11	6月23日	各論⑧：炎症・免疫・アレルギー疾患、内分泌代謝疾患に使用される薬物・薬剤・薬物の作用機序・薬物の適用と投与方法・TDMと投与計画・副作用とその対処法・今後の動向	薬理学 教員

12 13	6月30日	演習：事例・症例検討① 実際に処方された薬剤や、過去の薬物による有害事象をもとに、以下のような点について発表とディベートをおこない、理解を深める。・処方された薬剤（薬物）の薬理作用、症例への適応・容量・用法の適切性について討論する。・投与薬物の体内動態予測、および Therapeutic drug monitoring (TDM)について討論する。・使用された薬剤（薬物）の副作用の可能性、多剤併用の場合は薬物相互作用の有無、その様な症状がおきた場合の対処方法などについて討論する。	薬理学 教員
14 15	7月7日	演習：事例・症例検討② 実際に処方された薬剤や、過去の薬物による有害事象をもとに、以下のような点について発表とディベートをおこない、理解を深める。・処方された薬剤（薬物）の薬理作用、症例への適応・容量・用法の適切性について討論する。・投与薬物の体内動態予測、および Therapeutic drug monitoring (TDM)について討論する。・使用された薬剤（薬物）の副作用の可能性、多剤併用の場合は薬物相互作用の有無、その様な症状がおきた場合の対処方法などについて討論する。	薬理学 教員
<p>講義は、原則として 水曜日 16:50～18:20 に行います。講義はオンライン講義とし、ライブ配信またはオンデマンドとする。講義担当者の都合により、講義担当者が変更となる場合もあります。</p>			